

南あわじ市 平成 23 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

基本事項

		整理番号	658
事業名	育苗センター苗利用補助金	予算科目	会計 一般会計・1 款 農林水産業費・6款 項 農業費・1項 目 農業振興費・3目
担当部課名	農業振興部 農林振興課		
電話	0799-43-5025		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	南あわじ市補助金等交付規則
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり	
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】	
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる	
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託
			負担金補助

Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) あわじ島農業協同組合生産者部会員 対象人数(人) 2,500	
	目的	意 図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) プラグ育苗(レタス・リーフ系・白菜・キャベツ・グリーンボール)の利用による計画栽培と品質向上・規模維持拡大を図ることを目的とする。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) あわじ島農業協同組合がプラグ苗申し込みの取りまとめを行い、育苗センター(松帆・阿万)でセルトレイには種、育苗されたプラグ苗について、1トレイ当たり市が10円、農協が50円の助成を行う。	
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 国庫事業により、あわじ島農協育苗センター(松帆高屋)が平成13年度に設置されたことを契機に、平成14年度から100円/枚の助成額で事業が開始された。品質のよい育苗センターの苗は、年々需要が高まり、農家は育苗をセンターに委ねることで、計画栽培・経営規模拡大を図ることが出来る。以降、助成単価は徐々に引き下げられているが、品質の向上・維持拡大に貢献している。	
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (あわじ島農業協同組合)	
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前におけるの事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併協議において、苗助成は平成15年度で終了。		

Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	セルトレイ苗の枚数					指標単位
							枚
	指標説明 (指標算出 方法等)	あわじ島農協育苗センターにより育苗されたセルトレイ苗の間数					
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標値	79,440	80,000	80,000	80,000		
	実績値	73,381	79,927	77,284			
	達成度 (%)	92.4	99.9	96.6	-	-	
目標値設定 の考え方	近年の実績をもとに設定						
資源配分 (インプット)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	直接事業費 (千円)	2,935	3,197	1,546	800	0	
	育苗センター利用苗促進事業補助金	2,935	3,197	1,546	800	0	
	財 源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他						
	一般財源[A]	2,935	3,197	1,546	800	0	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0	0	
	平均人件費(1日当り)	27.9	28.2	27.4	26.8	26.8	
	事業量1(事業に要した日数)						
事業量2(事業に要した人数)							
年間経費([A]+[B])	2,935	3,197	1,546	800	0		
'目的'対象人数1人当り経費 (円)	1,174.0	1,278.8	618.4	320.0	0.0		
経費に関する 補足説明	平成22年度まで決算額。平成23年度は当初予算額。						

Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
達成度	目標達成度	%	92.4	99.9	96.6	-	-
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) ほぼ目標に近い実績である。						自己評価 (5点評価)
							3
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 育苗に関して、農家の労力軽減に大きく貢献し、産地の維持拡大に有効である。						自己評価 (5点評価)
	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
効率性	事業単価	円	1,174.0	1,278.8	618.4	320.0	0.0
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 平成14年度より始まった助成制度も10年目に入り、市の助成単価も当初の100円/枚から10円/枚と規模縮小がされている。利用実績はほぼ同率で推移している。						自己評価 (5点評価)
							4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 全国に誇る野菜産地としての規模を維持拡大していくために高品質で効率的な育苗は欠かせないものであり、今後においても継続する必要があると考える。						自己評価 (5点評価)
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析						評価グラフ
	全国に誇る野菜産地としての地位を維持するためにも、品質の向上・生産量増加は不可欠であり、それを可能とするための労力削減策としての、セルトレイ苗利用は有効であり、今後においても継続の必要があると考える。						

Action & Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成24年度にできる改善・改革	平成25年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	育苗センター整備後10年が経過し、助成単価も年々引き下げられているが、利用枚数に大きな変動はなく、安定している。セルトレイ苗利用推進のための事業であったが、所期の目的は達成したと思われるので、事業終了とする。	
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)	
中止・統廃合の影響		